

仕事において、ミス完全に防ぐことは難しいものです。しかし、そのミスを単なる失敗として片づけるのではなく、「どうすれば、そのミスを防げたのか」「そのミスを糧に、どう新たなスタートを切るか」を考えることが、自身の成長にとって非常に重要です。

印刷会社に勤めるある中堅社員は、常に業務に追われ、「忙しい、忙しい」が口癖になっていました。彼のデスク周りは資料で溢れかえり、必要な書類を探すだけでも時間がかかる有り様でした。

ある日、顧客との打ち合わせに向けて資料を作成していた際、前回の打ち合わせで挙げた検討事項について協議し忘れていたことに気づき、慌てて上司に相談しようとなりました。しかし、上司は別の会議に出席しており、なかなか連絡が取れません。結局、前回の申し送り事項の進捗がないまま、顧客との打ち合わせに臨むことになってしまいました。

この社員には、何事も先延ばしにする癖がありました。期日に余裕があると、へもう少ししてから取り掛かればいいと安易に考え、結局は締切間際になってから、他の業務との兼ね合いで右往左往しながら取り組むという日々を繰り返していたのです。

その結果、どの仕事も中途半端になり前述の打ち合わせ資料のように、取り掛かろうと思ったときには、状況が整っておらず、取り返しのつかない事態となって顧客に迷惑をかけてしまうことも度々ありました。



失敗を成長の種に変え よき再出発の習慣を育もう

こうした先延ばしの癖は、後々になって心と時間の余裕を奪い、ミスやトラブルの引き金となります。だからこそ、何事も余裕をもって取り組み、事が済んだらその場で適切に後始末をすることが大切です。この小さな積み重ねが、心と時間の余裕を生み出し、落ち着いて万全の仕事に取り組むための環境を整えてくれるのです。

さて、そうしたミスが起こったときに大切なのは、その失敗を力に変え、再出発するための心を整えることです。

私たちはミスをした際、ついその事実から目を背けたり、他人や環境のせいにしてしまいがちです。しかし、それでは物事は前に進みません。

まずは、そのミスをしっかりと直視し、事実と感情を切り離して考えることが必要です。そこから、ミスの原因となった事象や自身の振る舞いを見つめ直し、「次はこうしてみよう」と、小さくても新しい行動目標を立て、実際に行動に移すことです。

何事もスタートがあればゴールがあります。しかし、そのゴールはスタート時に想定していたものとは限りません。予想以上に良い結果になることもあれば、目を背けたくなるような結果になることもあります。ただし、そのゴールは次のスタートにつながる新たな出発点でもあります。

どのようなゴールであっても、次の良き再出発につなげるために、日々の小さな取り組みを大切にし、成功も失敗も自身の成長へとつなげていきたいものです。